

未来のつばさ

INDEX

P.2 理事長ごあいさつ
社会を構成する一人として

P.3 つばさTopic
寄稿 社会福祉法人窓愛園
理事長 上方 仁

将来の尊厳
～学習支援について～

P.4 2008年度事業活動のご報告、よろこび便り

P.6 紹介ひろば
児童養護施設 子持山学園

P.7 入会・寄付のご案内
支援者からの声 本年度の育英奨学・自立支援、受付期間

P.8 2009年度 育英奨学・自立支援資金 応募要項
申請受付から選考、支援完了までのプロセス

Vol.8
2009.6

社会を構成する一人として

特定非営利活動法人
エキスパート児童福祉支援協会
理事長 加苅 康作

社会的擁護を必要としている子ども達が18歳で児童養護施設や里親の許を離れることは、巣立ちという晴れやかな気持ちと自立という不安の両方を抱え、社会の一員になることへの覚悟を持たねばならぬときだと思うと、漕ぎ出す大海の波の荒さに胸が痛くなります。と同時に、大人の社会が彼らをどう受け入れるのかが試されるのであり、一人の人として、誰にでも『本当のやさしさ』をもって接することについて改めて考えさせられます。子どもの心は大人社会の映し鏡と思えば、彼らの心が荒んでしまったのは自分たちの心の汚れや、利便性だけを追求した利己主義に端を発していることに気づく必要があるのです。

昨年度、弊協会から134名の子どもへの支援ができました。支えてくださる支援者の皆様のおかげで

あり、報告と御礼を申し上げます。

子どもへの金銭的な支援はほんの僅かなサポートであり、私たちが彼らに伝えたいのは、「多くの人が見守っているよ」「社会を支える一人になれるようがんばって」という言葉です。そして、この支援をきっかけに職員や里親の皆さんが、いま一度子ども達に、「世の中は支えられたり支えたりして成り立っているんだよ」ということを話す機会をお持ちいただき、多くの人に支えられているということと、社会を構成する一員であることを、子ども達が気づくきっかけにしていただきたいのです。

末筆になりましたが、未来への翼を身につけ羽ばたく子ども達にエールを送るとともに、羽を休める拠り所となる施設職員や里親の皆様の献身的な擁護に感謝を申し上げます。

事業目的

児童養護施設・母子生活支援施設などの福祉施設や里親家庭で暮らす子ども達が自立を迎えるときに、将来の可能性のある子ども達の夢を実現できるよう支援の手を差し伸べることが事業の目的です。

事業内容

- 家庭環境に恵まれない子どもへの育英奨学資金の提供
- 家庭環境に恵まれない子どもへの自立支援資金の提供

上記の事業について、賛同して下さる方々と協力し、子ども達の未来を育む事業を進めていきたいと考えております。

役員

- 理事長 加苅 康作
- 理事 酒井 正子、上田 信夫、藤本 次男、米林 慶子
- 専務理事 三浦 直子
- 監事 伊藤 哲夫

寄稿

将来の尊厳 ～学習支援について～



社会福祉法人窓愛園 理事長
上方 仁



■今の「尊厳」と将来の「尊厳」

子どもには二つの「尊厳」が与えられると考えています。そのひとつは、「今・現在」家庭や施設で、一人の人間として大切にされること、つまり「今の尊厳」であり、一般的にこれだけが権利擁護の柱となっていると思います。しかし子どもにはこれから〈大人の世界〉という本番が待っています。そのため子ども達は、将来立派な社会人に成長するために時間をかけて準備しなければなりません。この準備には、学問、教養、しきたり、礼儀、作法などのほか、健康な身体、忍耐力を身に付けるなど、これから必要な事項ばかりです。この準備が不十分だと、将来大人の仲間に入れず、惨めな生活を余儀なくされる恐れがあります。実はこの「立派な社会人に育ててもらふ権利」が子どもにとって最も大切な権利であり、「将来の尊厳」とも言えると思いますが、皮肉なことに辛い、やりたくないことばかりで、子どもから見ると「権利侵害」に思える難しい支援なのです。その中でも学習支援についてはどの施設でも積極的に取り組まれていると思いますが、支援の難しさに頭を悩ませているのが実情なのではないでしょうか。

■学習は「拷問」からの解放

勉強が遅れている子どもにとって学校の授業はほとんど理解できず、面白くないどころか、とても辛い時間にも関わらず、毎日長い時間机に座らされているのは、拷問、いじめといっても過言ではないように思います。

施設における学習支援は、こうした遅れを1日も早く取り戻し、子ども達を「拷問」から解放する大切な仕事です。また学校生活での惨めな思いは施設に戻って爆発し、荒れたり問題行動に繋がるように思います。逆にこの「拷問」から解放されたと思える子どもは学力も伸び、生き活きと生活しているように思えます。

■施設にとって「学習支援」は大変

しかし実際問題として、今の職員配置基準では、夕刻から夜間の最も忙しい時間帯に、じっくり学習支援に取り組める余裕は殆ど無いと言って良いでしょう。

まして、殆どの子ども達が学年レベルよりかなり遅れている傾向がありますから、復習どころか、最初からやり直す必要があるため、とても手間と時間がかかります。また、なかなか理解が進まない事も多く、子どももイライラしてしまい、怒りだし暴れ出す子もいると思います。

つまり、施設における学習支援は一人ひとり根気よく、辛抱強く進める必要があり、相当のマンパワーが不可欠です。また、かなり遅れている子や気質に問題のある子については普通のやり方では子どもが荒れる等してしまい、全然進まないため、支援に専門的ノウハウが必要です。

今年度から、塾通いの費用を国が負担するそうです。夜間の子どものお出管理など問題はありますが、現状での施設内学習支援の困難さを理解していただいた点では、評価しています。

●窓愛園での取り組み

毎年園内で大論争をし、長年試行錯誤を繰り返し、現在は、次の体制を取っています。



- (1) 月曜・水曜・土曜・祭日は職員が、学年別に塾を開いています。かなりの職員講師の確保のため、夜の時間帯に極力勤務シフトを集中するのが大仕事です。
- (2) 火曜・木曜・金曜は筑波大学生さん80人が3班に分けて来園され、マンツーマンで個別に教えて頂いています。(筑波大学社会福祉研究会のメンバーで全員ボランティア)
- (3) 遅れの大きい子、理解度の低い子には、別に個別学習指導専門の先生2名に補助をお願いしています。

年々入所児童の学力水準は低下しているように思います。そのためにも学習支援をさらに充実させ、子どもの「将来の尊厳」を確保してあげねばと念じております。

事業報告書

2008年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)における
エキスパート児童福祉支援協会の活動についてご報告いたします。

事業の成果【支援者：134人／応募者：308人】

児童養護施設、母子生活支援施設や、里親家庭で生活している恵まれない子ども達への育英資金・自立支援の提供事業を実施しました。本年は、子ども達からの応募申請が想定以上に多く寄せられましたので、それに対応すべく選考委員会で慎重且つ公平に選考いたしました。また、2008年度より支援予定者数130名(うち、進学予定者：35%、就職予定者：65%)と応募要項に明記して募集しました。

●子ども達への育英奨学資金の提供事業

児童養護施設・母子生活支援施設・里親家庭にある子ども達の大学・短大・専門学校への進学時の入学金・学費補助として支援。

●子ども達への自立支援の提供事業

児童養護施設・母子生活支援施設・里親家庭にある子ども達の就労自立のための補助として支援。

事業の実施に関する事項

エキスパート児童福祉支援協会が取り組んできた特定非営利活動事業を2つに区分。
それぞれの事業内容についてご報告します。

定款の事業名 子どもへの育英奨学資金の提供事業		定款の事業名 子どもへの自立支援資金の提供事業	
事業内容	家庭環境に恵まれない子どもへの育英奨学資金の提供	事業内容	家庭環境に恵まれない子どもへの自立支援資金の提供
実施日時	2008年4月～2009年3月	実施日時	2008年4月～2009年3月
実施場所	児童養護施設、母子生活支援施設、里親家庭	実施場所	児童養護施設、母子生活支援施設、里親家庭
受益対象者の範囲及び人数	対象児童：46名	受益対象者の範囲及び人数	対象児童：88名
支出額(万円)	751万円 うち、広報活動費61万円	支出額(万円)	1,430万円 うち、広報活動費115万円

「2008年度 収支報告書」

2008年4月1日から
2009年3月31日まで (単位：円)

2008年度の収支についてご報告いたします。

科目	金額	
I 経常収入の部		
1 入会金収入	合計	経常収入合計
法人正会員入会金収入	20,000	50,000
個人正会員入会金収入	30,000	
2 会費収入	合計	
法人正会員年会費収入	20,000	229,000
個人正会員年会費収入	130,000	
賛助会員年会費収入	79,000	
3 寄付金収入	合計	
寄付金収入	70,977,360	70,977,360
		71,256,360
* 寄付金収入には、譲渡株式にかかる寄贈時の評価額で計上した35,651,700円を含む。		
II 経常支出の部		
1 事業費	合計	経常支出合計
子どもへの育英奨学資金	7,518,000	21,815,795
子どもへの自立支援資金	14,297,795	
2 管理費	合計	
	10,602,246	10,602,246
		32,418,041
III 経常収支差額		38,838,319
IV 当期収支差額		3,186,619
V 前期繰越収支差額		△44,999
VI 次期繰越収支差額		3,141,620

「2008年度 貸借対照表」

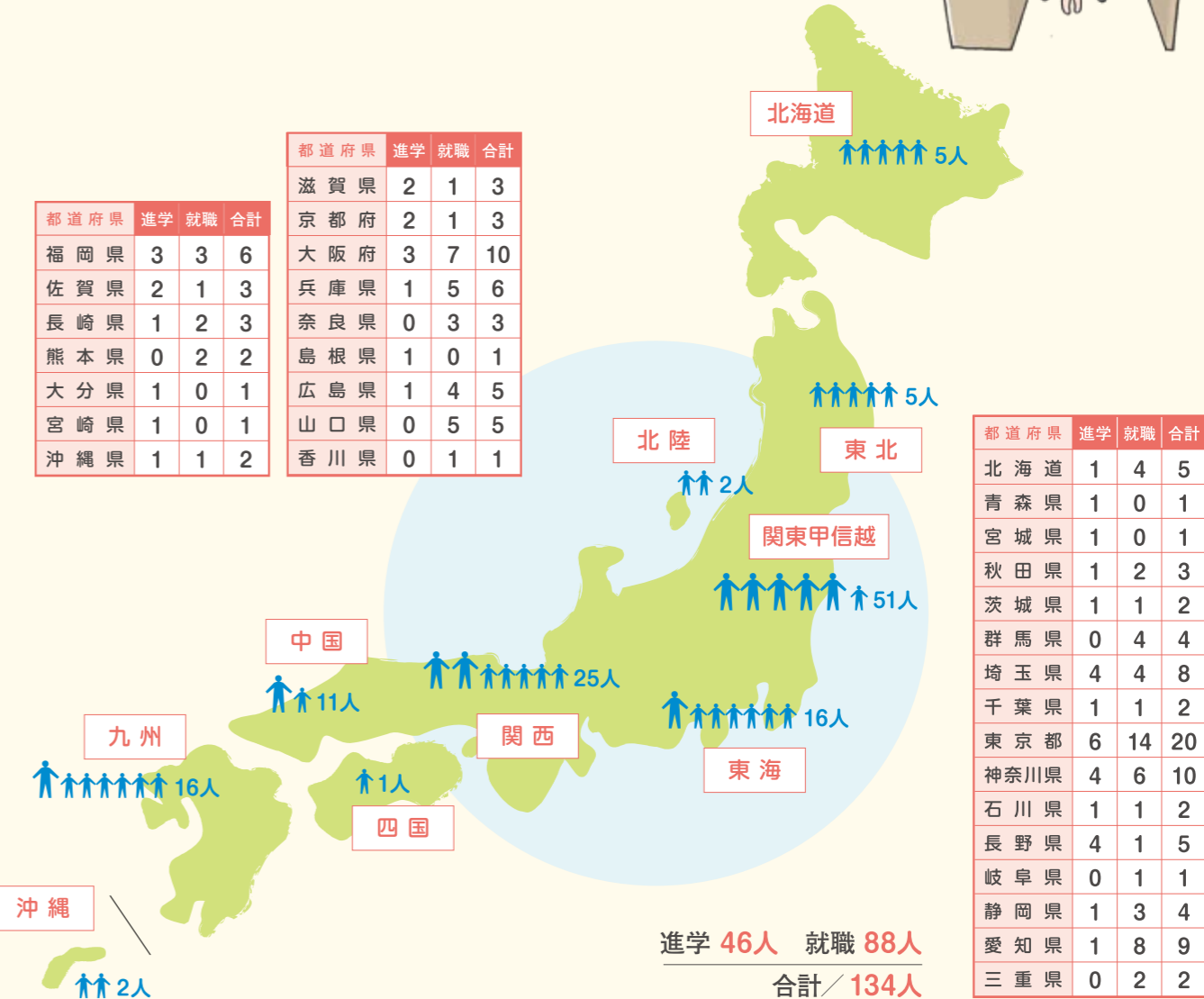
平成21年3月31日現在 (単位：円)

2008年度末時点における資産の保有状態についてご報告いたします。

科目	金額	
I 資産の部		
流動資産	合計	資産合計
現金預金	3,319,079	3,476,555
未収入金	157,476	
流動資産合計		
固定資産	合計	
投資有価証券	35,651,700	37,000,260
敷金	1,348,560	
固定資産合計		40,476,815
* 投資有価証券は寄贈により得た株式で配当金収入を目的として保有しているものです。		
II 負債の部		
流動負債		負債合計
未払金	334,935	334,935
流動負債合計		
III 正味財産の部		
正味財産		正味財産合計
前期繰越正味財産	1,303,561	40,141,880
当期正味財産増加額	38,838,319	
負債及び正味財産合計		40,476,815

2008年度 支援者数一覧

進学や就職をする、たくさん子ども達を支援することができました。



*** よろこび便り *** 子ども達から寄せられたよろこびの声を紹介します!

夢は教師になること

奨学金を支給していただきとても助かりました。お金の面で心配することなく勉強に集中することができました。日々教育に関する勉強をする中で、やはり教師になりたいという気持ちが強くなってきています。充実した大学生活を送ることができているのも、奨学金を支給していただいたおかげです。ありがとうございました。

大阪府 ポ・ドーム大念仏 出身

良い職場、良い先輩に出会えた喜び

就職して4カ月経ちました。今僕は、良い職場、良い先輩に出会えたことをなにより嬉しく思っています。働くことの大切さを知り、計画的にお金を使うことの難しさについても考えさせられました。どんな時でも、あいさつは大切だということも分かりました。まだ仕事も始まったばかりなので、体調を崩さないようがんばります。

静岡県 川奈臨海学園 出身

紹介ひろば

エキスパート児童福祉支援協会がこれまでに支援した施設の先生方にお話をうかがい、施設内の様子や子ども達の様子をご紹介します。

児童養護施設 こもちやま 子持山学園

施設データ

- 施設名称 子持山学園
- 施設長 豊田 誠
- 所在地 群馬県渋川市
- 経営母体 社会福祉法人 子持山福祉会
- 種別 児童養護施設



「多彩な年齢の職員が、家族のように成長を見守る」

子持山学園が児童養護施設として認可を受けたのは1952年。創立者の中澤英三氏が、戦後の混乱期、私財を投げ打って、故郷群馬県の戦災孤児たちを集めたのが始まりでした。現在は乳幼児から高校生まで、本・分園あわせて58名が、住み込み職員10名とともに生活しています。キリスト教精神から生まれた「いと小さき者への愛を」という創立理念は、しっかりと地域に根付き、放課後もクラスメイト達が気軽に遊びに来るとのこと。学園の子という特別なくくりを作らず、家族的な雰囲気の中で子ども達を見守ってほしいと、学校側へも積極的に働きかけています。「10年ほど前からの取り組みが、ようやく実を結び始めました」と、統括主任の太田優子先生。最大の特長のひとつが、職員の年齢層の厚さ。子育てを終えた女性を準職員として積極的に登用し、子ども達のちょっ

とした動きを見逃さず、きめ細かく対応できる環境が築かれているのです。「昨年6名が新規入职したのですが、子育ての経験がないと、子ども達の成長の度合いが測れないことも多い。その点、母親世代が身近にすることで、子どもにとっても、職員にとってもプラスに作用していますね」。

昨年は、エキスパートグループが、老朽化した園庭の遊具を新しく設置するとともに、周辺を整備し、子ども達が安心して遊べる環境作りを支援。当協会の支援者でもあるエキスパートの地元エージェントによる見学訪問を機に、クリスマス会に招かれるなど、交流を深めている。「日頃は園庭などで遊ばない上級生達も、楽しそうに設置を手伝い、いつもと違う一面を見せてくれました。よほどうれしかったみたいですね」。

先生からのメッセージ



統括主任
太田 優子先生

「許し許されることの尊さを知る人に」

この春、3名の子ども達が、高校卒業と同時に巣立っていきました。卒園までにすべきことで、私たちが最も気を遣うのは真実告知です。社会人として自立するためには、自分が本当はどんな環境に置かれているかを、しっかりと受け止めなければ前に進めません。入園時の年齢ではとても抱えきれないような問題も多いですが、成長を見守りながら、頃合を計って真実を話す。そのタイミングが難しいですね。エキスパート児童福祉支援協会の支援は、資金など形のあるものももちろんですが、自分たちを見守ってくれている大人が、園の外にも大勢いるという、精神的な面も大きいと思います。過酷な境遇に傷つき、大人への不信感を捨て去れない子もいますが、許し許されることの尊さに気づいて、逆境に負けない強い子になってほしい。疲れたら休みに帰ってきてくれればいいのですから。

特定非営利活動法人 エキスパート児童福祉支援協会

入会・寄付のご案内

エキスパート児童福祉支援協会は、会員の皆様の会費と寄付金を財源として、運営されています。当協会の趣旨と事業内容をご理解のうえ、一人でも多くの方にご入会いただけますようお願いいたします。

●入会金及び年会費と寄付金額

		入会金	年会費
正会員	法人・団体	20,000円	20,000円
	個人	10,000円	10,000円
賛助会員	法人・団体	なし	5,000円
	個人		3,000円
寄付		1,000円から承ります	

注) ①賛助会員は議決権を持ちません。②当協会は、認定NPO法人ではありませんので、寄付金控除の税の優遇処置適用に該当しません。ご了承のうえ、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●入会手続きと寄付のお申込み

入会・ご寄付に関するお問い合わせは、直接協会までご連絡ください。申込書をお送りいたしますので、ご記入後郵送、またはFAXで送っていただき、入会金・年会費・寄付金は下記の口座へお振込ください。振込手数料、郵送料金はご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

●お振込先

三菱東京UFJ銀行 堀留支店 普通4518354

とくていひえいりかつどうほうじん エキスパート児童福祉支援協会

* 支援者からの声 *

千葉県 丹澤 正直さん

皆さんの年代で施設を出ることは、とても不安でしょう。私が22歳の時父を亡くし、急に社会に出た時の心境や、私の3人の子ども達が同じ年齢だった時のことを思い出すと容易に想像できます。社会にはいろいろなことがあります。人生はすべて学びと思い、なにももの恐れず前に進んでください。

世の中には皆さんの成長を遠く近くからやさしく見守っている人がたくさんいることを決して忘れてください。何年かあとに皆さんが社会の一員として立派に成長し、暖かい家庭を築いてくれることが私たちの喜びです。わずかずつですが皆様の力になり続けたいと思います。

お知らせ

本年度の育英奨学・自立支援、受付期間

12月1日より2009年度の育英奨学・自立支援資金制度の申請受付を開始します。

受付期間：2009年12月1日～2010年1月25日必着



2009年度 育英奨学・自立支援資金

応募要項

1. 支援対象

次の子ども達が対象となります。

- ① 児童養護施設入所の児童
- ② 母子生活支援施設入所の児童
- ③ 里親家族の児童

上記で、原則として18歳を迎え進学・就職する予定の児童が対象です。その他の児童福祉施設入所の児童はご相談ください。

2. 支援内容と支援金額

- ① 進学者への支度金として
一人15万円(大学・短大・専門学校など)
- ② 就職者への支度金として
一人15万円

支援資金はいずれも返済義務はありません。

3. 選考方法

申請書類に基づき、当協会の選考委員会によって書類審査を行います。

4. 申請書類

詳細については、当協会本部にお問い合わせください。

5. 申請受付期間と選考結果の通知

受付期間：2009年12月1日～2010年1月25日必着
結果通知：2010年2月末日結果通知(郵送)

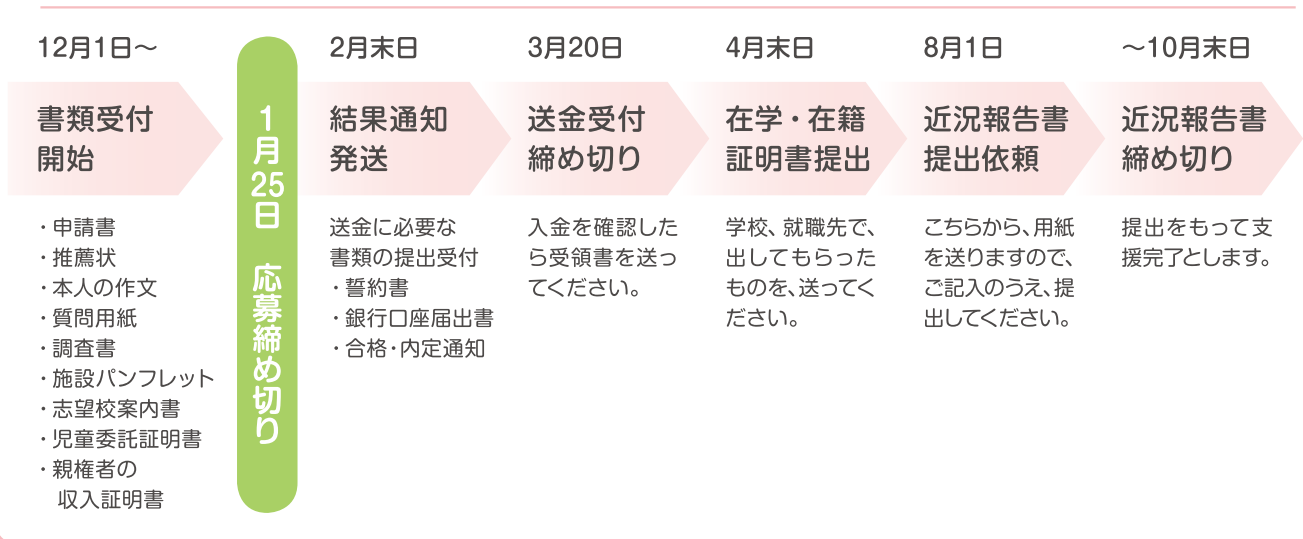
6. 申込先

申請書類は当協会本部へ提出してください。

※詳しくは当協会ホームページをご覧ください。

協会URL: <http://www.ex-child.or.jp>

申請受付から選考、支援完了までのプロセス



特定非営利活動法人

エキスパート児童福祉支援協会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10 日本橋インテリジェントフラッツ402

電話：03-5642-6330 FAX：03-3249-7730 E-mail：info@ex-child.or.jp

<http://www.ex-child.or.jp>